

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491500462		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター倉光		
所在地	広島県福山市駅家町倉光23-1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3491500462-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしくをモットーにコミュニケーション・ケアを行っている
ご家族様には良い事も悪い事も全て、お伝えする様に意識をし信頼関係を築くように努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ニチイケアセンター倉光は、静かな通りの一角にあるが、近くには県道が走り、スーパーマーケットや商店が並び利便性がある。建物は、2階建て、隣接した他事業所と運営推進会議や祭りを合同で、行っている。ホームの開設は古く、利用者の年齢も高齢化しているが、元気で過ごされている。利用者の中には、短歌作りが趣味で、作品を壁に掲げておられた。出来るだけ残存能力を活かせるよう利用者一人ひとりを個別に支援している。特に医療機関との連携を大切にしてい、看取り経験も多く、利用者や家族との信頼関係があり、ゆったりと落ち着いたホームである。

ニチケアセンター倉光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム独自の理念を共有「お客様には真心を笑顔のたえないホーム」 その方にあったケアを行っている	法人の社是は、誠意・誇り・情熱を掲げ、社会的使命を信条としており、それを具体的な行動指針として、ホーム独自で「お客様には真心を 笑顔の絶えない倉光ホーム」を職員全員で共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の商店などへの買い物や散歩の支援を通し地域の方と接している	北部支所の祭りに参加したり、地域の定食屋や回転ずしを食べに行ったりして、平素から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を開催し認知症の理解や支援方法の話をさせて頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族や民生委員・包括の職員から意見を頂きケアや運営に活かしている	隣接の他事業所と合同で、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、包括支援センター職員、管理者、利用者家族等が参加して、事業所の現状報告、地域交流、空き室報告等、情報交換や意見交換を行っている。	運営推進会議に地域の町内会長や老人会会長に参加してもらえるよう、再度、働き掛けを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	困難時など連絡を早急に取り相談している	市担当者に事業所の運営や現場の実情等を伝えたり直面している課題に向けて話し合ったり、相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム会議等で勉強会を行い意識を高める様に取り組んでいる	日中玄関の施錠は、しないこと等を含め、身体拘束をしないケアの実践に努め、又、虐待防止スローガン「虐待は許さない・虐待をしない・虐待をさせない・虐待を見逃さない」を掲げ、職員全員が、見守りながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	ホーム会議等で勉強会を行い意識付けをし通報義務について説明し虐待防止に努めている		

ニチケアセンター倉光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会にて議題にあげている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や加算申請時の説明を家族会や運営推進会議にて説明している 欠席の方には電話及び書面にて説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム玄関に「ご意見箱」を設置し会社のフリーダイヤルを契約時に記載し説明している 家族からも意見を聞くよう努めている	家族からは、気軽に尋ねて行きやすいとの声が多く、面会時や運営推進会議の時に家族から意見を聞き、(駐車場に関する件等)その都度、対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議及びユニット会議を開催し運営に関する話し合いを設け反映させている	ホーム会議、ユニット会議が、1ヶ月にそれぞれ1回あり、職員からの意見(ケアの改善、食事の改善等)が出され検討し、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正社員には賞与前に評価制度を設けている、非常勤社員にはキャリアアップ制度を設け向上心を持って働けるようにしている。又、有給休暇の取得を率先している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等の情報提供や参加しやすい様にシフトを調整し資格取得を目指す事を話している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の小規模多機能施設とは運営推進会議を合同で開催している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	認知症になられる前やなられてからの思いを家族から聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅介護時、一番困られていた事や入居後の希望等を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族にとって、その時に必要と思われるサービスの情報提供を選択して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションを通し個人を尊重し信頼関係を深めケアをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に状況報告をしたりケアに参加して頂いたり在宅時の本人と家族の関係より入居後の方が良くなる様に家族との連絡を密にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	契約書には面会時間を記載してあるが実際には規制は設けていない	顔馴染みになっている近所のケーキ屋とか商店に買い物に出かけて行くことを楽しみにされている。以前は、馴染みの美容院に行っていたが、重度化して、難しくはなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	口論などになった場合、職員が仲介し孤立する事の無い様にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された家族から連絡が入る事もあり内容に応じて相談・支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安全面に配慮しながら可能な限り本人の意向に添うようにしている	利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、一人ひとりの思いや希望、意向を把握し(個人で、新聞を取っている人も居る。)支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントにて趣味や嗜好を把握しケアを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前のアセスメントと入居後のカンファレンスで把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期や臨時のカンファレンスを行い行動や言動など生活リズムを把握し状態にあった計画書を作成している	毎月カンファレンス等で意見を出し合い、又、家族からの意見や情報も頂きながら、ケアに活かせるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	管理日誌や個人記録に記入し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度、本人や家族の現状に合わせ対応し精神状態がどのように対応すれば落ち着かれるか等考え、その時々で工夫し支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	警察や消防署にも協力して貰いながら支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医若しくは在宅時のかかりつけ医の受診可 但し提携医以外は家族対応となる	主に協力医療機関の医師をかかりつけ医としているが、入所前からの医師を主治医としている方もおられる。医師の往診は月2回、看護師の訪問は月4回、訪問リハは月1回等、その他、希望する医療を受けられるよう支援しているが、提携医以外は、家族対応としている。	

ニチケアセンター倉光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制にて毎週水曜日に提携医看護師の訪問がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当看護師や家族からの情報で状態を把握している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療依存度が高くなられた場合や経口摂取が困難になられた時は、家族・提携医と今後の治療方針や生活の場を話し合う場を設けている	「重度化した場合における対応に係る指針」を入所時に家族と相談しながら伝えているが、状況変化に応じて、医師、家族、職員で話し合い、「今後の指針」とし皆で共有し、連携を図っている。今まで10人以上の看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的にはないが実施している 急変時のマニュアル掲示		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣介護施設との協力体制 避難訓練の定期的な実施	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。1回は、消防署が立会い、通報・避難・消火訓練を行い、夜間想定も実施した。尚、非常用食料も備蓄している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いに気を付けている。 高齢者虐待の研修を実地 個人情報の取扱いにも気を付けている	個人情報保護の研修を行っている。個人ファイルは、イニシャル表示にしており、取り扱いには気を付けている。言葉遣いは、職員同士、注意し合う事もある。2ヶ月に1回ほほえみ便を発行するが、利用者の写真は掲載しない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症により思いを上手に伝えられない方が多いが出来るだけ気持ちを汲み取れる様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に1人1人のペースに合わせるのは困難だが計画に添って支援している、なるべく個々のペースに添ったケアをしている		

ニチケアセンター倉光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みの洋服等を着て頂ける様に支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員の手作りや業者の材料を使用し行事の時には出前を取ったりと飽きない様に工夫している 入居者と一緒に調理する事は難しい	週に2～3回、買い物に行き、毎日、職員が3食、作っている。嚥下障害がある方は、業者から、味付けしてムース状で、成型してあるものが届き好評である。時には、利用者と一緒に巻きずしを作ったり、出前を取ることもあり、食事が楽しみになるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は管理し健康面に注意しているが苦痛に感じるような無理強いはいしない様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア実施 希望者には定期的な訪問歯科による口腔ケアも実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛け・誘導で羞恥心に配慮しながら残存機能を使っていたきケアを行っている	排泄のパターン表を作成して、日中は、パットや布パンツを使用して、出来るだけトイレでの排泄になるよう個別でトイレ誘導をして、自立に向けての支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を把握し食事・薬剤・運動などで便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めていない 時間帯はある程度決めている 一般浴が困難な方は2人対応でケアを行うか又は清拭足浴で対応している	週に2～3回、希望があれば、それ以外でも入浴の支援を行っている。午前、午後、バイタルチェックを計りながら、利用者の体調や状況を見て、入浴介助を行い、ゆったりと入浴を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室や和室にて午睡して頂く事も可能 夜間不眠時は生活面での工夫をしたり提携医に相談している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤セット方法や個々の介助方法を職員で統一し 薬剤説明書をファイルしている		

ニチケアセンター倉光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物の手伝いや歌・テレビ・おやつ・散歩など楽しめるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は難しい面もあるが気候が良い時等散歩したり、庭に出て頂ける様に支援している	その日の体調に考慮しながら、買い物や散歩等の外出支援を行ったり、季節を楽しめるよう、お花見に出かけたり、時には、バルコニーでお茶やコーヒーを飲みながら、日光浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お使い金の管理のみしている 財布を持たれている方もいらっしゃるが管理はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば前もって家族と相談し掛けさせて貰っている 葉書や手紙は本人にお渡しし本人宛の電話があれば換わる		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快にならない程度で掲示している	リビングの一角に畳のコーナーがあり、横になる人もあり、ボランティアで、大正琴やカラオケを楽しむ場がある。壁には、季節を感じさせるはり絵が飾ってあったり、生花が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室や和室を自由に使用している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具は愛着のある品を持って来て頂いている 配置などは身体・精神状況を考慮しながら決めている	居室の換気や適切な温度管理を心掛けている。部屋には、家族の写真や家にあったものを飾ったり、使い慣れた家具を配置して、くつろげるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行器や車椅子の方でもゆったりと行き来できる トイレとわかり易い様に動物の写真を貼っている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

ニチイケアセンター倉光

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター倉光

作成日 平成 27年2月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との関わりが、出来ていないと思う。	地域の方をニチイ祭りに誘う。	ニチイ祭りのチラシを作成して、近所に配布し、来て頂くようにする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。